



東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 生体環境応答学講座免疫アレルギー学分野

佐藤 莊

2020年の7月から烏山一先生の後任として、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科免疫アレルギー学研究室を主宰する機会をいただきました。この度は研究室紹介の機会を頂き、この場をお借りして今まで御世話になりました日本生化学会会員の皆様方に改めまして御礼を申し上げます。私は、これまで大阪大学免疫学フロンティア研究センターの審良静男先生の御指導のもとで自然免疫学について学んでまいりました。院生として研究を開始した当初は、自然免疫が非常にホットスポットになっていて、教室でもToll-like receptorを始めとした自然免疫受容体とそのシグナル伝達経路の仕事が精力的に行われており、研究室の電気が消えることがない刺激的な日々でした。これから私もラボを運営していくのですが、あの様なエネルギーに満ち溢れた研究室を目指して頑張っていきたいと思います。

研究面では、これまで私はマクロファージの研究を行ってまいりました。研究を始めた当時、マクロファージの多様性については殆ど研究が進んでいなかったのですが、私達はきっと複数のサブタイプがあると仮定して研究を行い、生体には複数のマクロファージサブタイプが存在し、各々が疾患ごとに異なる役割を持っていることを明らかにしてまいりました。今後はこれまで研究を行ってきた疾患に加え、認知症やがん、感染症等の研究も展開していきたいと考えております。また、ラボを構えたら行ってみたいと思っていた新しいテーマとして、細胞を分類するこれまで得られたノウハウをマクロファージだけでなく様々な免疫細胞へと応用し、細胞のダイバーシティをキーワードに新たな研究分野を開拓していきたいと考えております。また、得られた研究シーズの応用として国内外の企業と創薬化することにも力を入れてきましたが、基礎研究とは異なり、その活動の中でヒト外挿性や臨床研究の重要性を認識してまいりました。しかし、臨床と基礎が非常に近い距離

にあるこの東京医科歯科大学ではこれらのハードルも解決しやすいと感じております。これからは基礎分野の先生とだけでなく臨床の先生方とも共同研究の機会を探りつつ、創薬開発にもチャレンジしていきたいと思っております。

ラボについては、この4月から大阪に残っていた私のグループも全員合流し、さらに一緒に研究をしてくれる教室の新しいメンバーが増えてきて、現在では全員で15人になりました。この場を借りて大変恐縮ですが、現在、研究室と一緒に盛り上げてもらえる助教さんを複数名募集しておりますので、もし御興味がある方は一度HP (<https://www.satoh-lab.com>) をチェックしてください。また、医学部ということで、学部生と接する機会も多くあり、本当に充実した毎日を過ごしております。新しいことにチャレンジしていきたいと思っておりますので、生化学会の諸先生方におかれましては今後とも御指導、御鞭撻の程どうぞ宜しく御願い申し上げます。

